

おうとう

第12号
文責日高洋子



駅伝練習が大詰め

大会本番まであと1ヶ月

今年の夏もとにかく暑かった！ここ数年、夏休みの駅伝大会の練習は熱中症に気を付けて涼しいうちに、早めに切り上げた練習になっていきますが、今年は自主的な参加が多いこともあって体調管理を十分に行った上で練習を進めています。真っ黒に日焼けした

子ども達を見ると過酷さが伝わってきます。夏休み中は事故もなく、試合まで1ヶ月を切って最終の追い込みに入っています。個々のタイムもあがって来ているようです。駅伝の醍醐味でもある「1本のタスキを仲間とつなぐ」というスポーツは子ども達の心身を成長させるものです。放課後の練習を見ていると、仲間を励まし、頑張った者には賞賛を送り、厳しい練習の中にも達成感を感じている様子が見えます。決して自分のためだけに走るのではなく、仲間が少しでも楽に走れるように、背中を押せるように走っているようです。大会がとも楽しみになりました。



暑い暑さの中、お互いが声を掛け合い頑張っています。

読み方レスキュー

子ども達が苦手なこと



「読み方レスキュー」で読解力を身に付けます。1年生は今年初めての取組です。

9月27日(金)は本校の研究発表会があります。その中でも紹介がありますが、子ども達の「読解力」を身に付けるために取り組んでいるのが「読み方レスキュー」です。「読解力」は文章を読み取る力のこと、この力が弱いと、その文章に何が書かれていて、何を聞かれているのかわからず、答えられない、ということになります。書くこと、聞くことにも関連があり、コミュニケーション力向上にも役立てられないかと思っています。本校の子ども達はこの読解力を苦手とする子どもが多くいます。問題の捉え方が弱く、質問に答えられないのです。本校の研究ではこの読解力を高めて、学力の向上を目指しています。

宿題は何のため？

夏休みの課題提出状況から…

2学期開始日に、職員室では先生方が夏休みの宿題が全員そろっていないことをがっかりしていました。宿題は各教科で長い休み期間に1学期の復習ができるようにと用意されたものであり、何もしていないとなれば学習内容は身に付いていないのでは？と心配になるのは当然なのです。子ども達は、なぜ学力を身に付けることが必要なかを理解していないのでは？とも考えています。勉強をするという行為は、思考力や活用力、利他力、表現力、継続力を身に付け自らの将来を切り拓くためのものなのです。この夏、何もやらなくても良かったのかな。御家庭でも話題にしてほしいと思います。

運動部活動試合結果

9月に入って残暑が厳しいですが、部活動では1、2年生の新しいチームが動き出し、早速ソフトテニス部の新人大会がありました。駅伝と同じく酷暑の中女子は団体準優勝、個人では久保・白濱ペアがみごとに夏季大会のリベンジを果たして優勝しました。男子は団体がなく個人戦のみで1勝2敗で終わりました。また、五島市民体育大会では、柔道部が団体で優勝、個人では2位に藤田丈太郎さん、3位に志内克也さんでした。1年生の個人戦では荒木悠利さんが優勝しました。陸上で2女子1000m黒川愛唯さん、2年男子3000m、田中千之助さん、3年男子3000m、松本湊さん、1年女子2000m、山田陽向さんが優勝しました。いずれも好成績を残しています。

校長室から

市民体育大会では本校の生徒が大活躍を見せていますが、本校に部活動はないのですが地域クラブでバレーボールを頑張っている女子がいます。先日の市民体育大会では惜しくも福江中学校に負けて準優勝でした。次の日の朝から感想を聞いたところ「楽しかったです！」と満面の笑顔で話してくれました。はっとしました。スポーツはこうでなければ、と思いましたが、これは当たり前だと思いましたが、勝ちにこだわらずに、スポーツを楽しむことを忘れてはいけません。私も昔、部活が楽しくてこの学校に来たことを思い出しました。